

## 「払郎察辞範」源流考

吉 岡 秋 義

(1963.10.15)

は し が き

長崎市立博物館所蔵の「拂郎察辞範」(以下辞範と仮称) および「和佛蘭對譯語林」(以下語林と仮称)は日本人により編纂された本邦最初の仏語字書として我国の仏語発達史上重要な意義をもつもので、両書については、すでに、蘭学、洋学の研究諸家が述べているところであるが、その記述は、多く、断片的で、両書の内容についての系統的な研究は少ない<sup>1)</sup>。この意味で、東大の松村教授が国語研究室の創刊号(昭和38年1月)に発表された「拂郎察辞範」と「和佛蘭對譯語林」と題する研究報告は両書の研究上重要な意義を有するものである。然しながら、教授の論稿は摘記された両書の項目を比較検討して辞範と語林の関係を説き<sup>2)</sup>、次で、国会図書館所蔵の Pieter Marin 著「Nouvelle Methode Pour apprendre les Principes et l'Usage des Langues Françoise et Hollandoise」の1790年版(以下国会本と仮称)と両書を比較研究して、両書は、その一部を除いては、辞範の巻頭に示されている“新正拂郎察語例・暦数一千七百七十五年鏤版・西洋和蘭大儒官 ピーテル マーリン 批得耳麻林著”の大体忠実な翻訳であると断定されている<sup>3)</sup>のであって、各項目に含まれている内容の比較検討はなされていない。又、平戸松浦家史料博物館所蔵の Pieter Marin 同名の書(1762年版、以下平戸本と仮称)については、全く、ふれておられない<sup>4)</sup>。

本稿の目的は、平戸本の払文の諸項目とその内容を、国会本、辞範のそれと対比して、三者間の関係をさぐり、辞範原典の一部の輪郭を明らかに

すると共に、従来、不問に付されていた、辞範の系譜を究めんとするものである。なお、辞範原典の全般的な究明は、次の、辞範、語林の総合的な研究において、行なうこととしたい。

## 1. 平戸本

本書は、背皮装の一冊本で縦 16.5 センチ、横 10.5 センチで、国会本と同型である。背に、FRANSCHEN NEDERDUITSCH SPRAAKWYZE と記されている。扉の文字は NOUVELLE METHODE/Pour apprendre les Principes et l'Usage/des LANGUES/FRANCOISE ET/HOL-LANDOISE./Nieuwe Fransche en Nederduitsche/SPRAAKWYZE/vermeerd met een uitvoerige Syntaxis/of Woorden-Schikking/DOOR PIETER MARIN/TAALMEESTER/Dev laatsten Druk./TE AMSTERDAM/Bij JAN van EYL, Boekverkoper op den Dam./MDCCLXII/met Privilegie van den Edele Groot Moogende Heeren Staaten/van Holland en Westfriesland. と記されている。これを、国会本のそれと比すれば、Den laatsten Druk の次に国会本では Op nieuws overgezien en van veele fouten gezuivert, door J.J. GILBERT, Leermeeester in de Latynsche, Fransche, Engelsche en Nederduitsche Taalen. 即ち、ラテン語、フランス語、英語、およびオランダ語教師ジルベールが校閲し旧版の多くの誤りを訂正した旨が新に記入されている点が異り、発行者が JAN van EYL より Hendrik Botter に変わり、刊年が、平戸本の 1762 年に対し、1790 年となっている点を除けば、他は全く同じである。ここでの旧版が、辞範原典をさすか、それを含めての旧版すべてをさすか、疑問であるが、国会本と辞範との間には、大文字、é, è の用法に、多くの相異があるが、それは、平戸本、国会本の用法が、殆んど一致する点からみて、

むしろ、後述のように、編纂者、口授者ドーフの側に原因があると推測される。辞範原典においては、恐らく国会本と同じ用例であったと思われること、平戸本、国会本の間には、単語、短文等につき、国会本、辞範間にみられない相異がある点（語林に含まれている部分については更に多い）よりみて、平戸本および、それ以前のものをさすのではないかと思われる。

扉の裏面は白紙で次の2ページが PRIVILEGIE（国王の発行許可証）、次が、AAN ALLE FRANSCHЕ TAAL MEESTERS/EN/SCHOOL/HOUDERS.（すべてのの仏語教師および校主へ）で1ページを占め、Bericht van den drukker aan den leezer（読者に対する発行者の便り）2ページ、Op de nieuwe spraakwyze van Pieter Marin（ピーテル・マリンの新しい方法について）2ページ、となっている。この7ページに亘る諸項目、および、各項目のページ数は国会本と一致し、PRIVILEGIE間の小異を除けば、内容は大体において一致する。前文中の PRIVILEGIE はマリン原書の初版の推定上必要なもので、関係ある原文を抽記すると平戸本では次のとおりである。

「De STAATEN van Holland en West-Vriesland doen te weeten: Also ons te kennen is gegeven bij Jan van Eyl, Burger en Boekverkoper binnen de Stad Amsterdam, dat de Suppliant op den 21 Junny des Jaars 1743, van ons hat geobtaineert Prolongatie van Octroy om voor de tijd van nog vijftien agter een volgende jaaren om alleen en met uitsluiting van anderen te mogen drukken, uitgeven, verhanderen en verkoopen de volgende werkjes van Pieter Marin, als, Nouvelle Methode, of Nieuwe Spraakwyse, tot onderrichting der Fransche Taale,....endewijl de prolongatie van het voortz, Octrooi met den 21

Junny aanstaande stond te expieren……Soo keerde zig de Suppliant tot ons reverentelijk verzoekunde Prolongatie van het voorz, Octroy voor den tijd van nog vijftien volgende jaaren……Soo ist dat wij……den selven Suppliant geconsenteert, geaccordeert en geoctroijeert hebben, consenteeren, accordeeren en Octroijeeren hem bij deese, dat bij gedurende den tijd van nog vijftien eerst agter een volgende jaaren de voorts.

即ち、これによって、本書の発行人 Jan van Eyl が 1743 年 6 月 21 日に、更に、向う 15 カ年に亘る発行許可の更新を認められたこと、その更新期間は本発行許可証の交付年たる 1758 年 6 月 21 日に失効するから、発行者は更に 15 カ年の延長を申請し、許可をうけたことが判る。又、1743 年に許可の更新を求めたのであるから、それに先立つ 1728 年に発行許可をうけていることも推定される。Privelegie は 1758 年 6 月 13 日付である。国会本の Privilegie をみると「……Alzoo Ons te kennen is gegeven bij Hendrik Botter, Burger en Boekverkopper binnen de Stad Amsterdam: dat hij Suppliant van ons op den 8 May 1773 gunstig hebben de geobtineert Octroy, voor den tijd van vijftien agter een volgende jaaren, ingegaan zynde met den 13 Juny 1773 en eindigende met den 13 Juny deezes Jaars,……Ons ootmoediglijk verzoekende, dat wij aan hem Suppliant geliefden te verleenen prolongatie van het voorts, Octroy, voor den tijd van nog vijftien eerst komende en agter een volgende Jaaren, in te gaan met het expiereren van het zelve Octroy……consenteren, accorderen en octroyeren hem bij dezen, dat hij gedurende den tijd van nog vijftien eerst agter een vorgende Jaaren, de voorts, werkjes van Pieter Marin, als: Nouvelle Methode,

of Nieuwe Spraakwijze, tot onderrichting der Fransche Taale....

これによって、Hendrik Botter に対し 1773 年 5 月 8 日に向う 15 カ年の発行許可期間が更新され、それが同年 6 月 13 日から発効したこと、従って 1788 年 6 月 13 日に失効するために、期間更新を出願したので、これに対し、Nouvelle Methode を含めてマリンの著書の発行を更に 15 カ年に亘り許可したということが判る。Privilege は 1788 年 8 月 30 日付である。

上述したところから、平戸本、国会本は、マリンの“Nouvelle Methode”の異版本の関係にあり、辞範原典はその間に出版されたもので、三者は、1762 年版—1775 年版—1790 年版の関係におかれるものである。それでは、“Nouvelle Methode”の初版は、何時出たものであろうか。

平戸本、国会本の前文中に“Op de Nieuwe Spraakwijze van Pieter Marin”と題する同文の序文が 1 ページに亘り記載されている。その日付は、1697 年 11 月 28 日となっており、要旨は“本書において、著者は、そのすぐれた努力の結果を示している。フランス語の特質と文法諸規則を、簡明、容易な方法で、教えているから、フランス語を六ヶしいものと思つて、学習を、ためらっていた人々を、この書は、やさしい道へ、導いてくれるであろう。この書によって、やがて、我が同国人の口から、フランス語が、なめらかに、流れ出るようになるであろう」といつている。

この序文は、辞範原典にも記載されていたと思われる。

ところで M. M. Kleerkooper と W. P. van Stockum Jr. の共著“De boekhandel te Amsterdam voornamelijk in de 17e eeuw”. (La Haye 1914—1916). vol. I p. 679 にマリンが、その著書に関して、書籍商 Pieter Sceperus との間に起った紛争について、公証人に作成させた書面が記載されている。関係ある文面を抽記すると次のようである。

27 Maart 1698. Insinuantie gedaan van wegen S. Pieter Sceperus,

boekvercoper alhier aan Pieter Marijn, als volgt.

Den insinuant seijt dat hij van Haer Ed. Gr. Mog. de Heeren Staten van Hollant en West-Vrieslant op den 15 November 1697 heeft octroye omme voor den tijt van 15 eerstecomende jaeren alleen en met uijtsluijtinge van alle anderen te mogen drucken, uijtgeven ende vercopen soodanige boekie genaamt “Nouvelle Methode ofte nieuwe spraakwijse tot onderwijsinge der franse taal”....

ここで問題となっているマリンの著書は *Nouvelle Methode* であり、その発行許可をうけたのは 1697 年 11 月 15 日であったことが知られる。書名は平戸本および国会本の *PRIVILEGIE* に記載されたものと同じものである。マリンの出生年を 1667 年とすれば、彼が 30 才の時となる。国会本および平戸本の序文 “Op de nieuwe Spraakwijse van Pieter Marin” の日付は 1697 年 11 月 28 日であるから、上記の日付と照合して、政府の発行許可をうけて出版された *Nouvelle Methode* の初版の刊年は 1697 年であると断定してさしつかえあるまい。

Van der Aa の “*Biographisch woordenboek der Nederlanden, Haarlem, 1869. Vol. II p. 244.*” にも *Nouvelle Méthode Française-Hollandaise, 1697, 1711, 1715, 1775.* と記載している。この書名が国会本、平戸本の仏文書名 “*Nouvelle Methode Pour apprendre les Principes & l’Usage des LANGUES FRANÇOISE ET HOLLANDOISE*” よりとったものであることは明らかであるが、刊年に平戸本の 1762 年、国会本の 1790 年がおちているのは何故であろうか。恐らく、マリンの業績についての研究の不備に由来するものであろう<sup>5)</sup>。

次に、“政府の発行許可をうけた” *Nouvelle Methode* の初版と特に限定したことについて述べたい。

発行許可に基づく出版は、政府の特別な保護を受けた独占的な権利であり、その侵害に対しては、罰金や出版物の没収という制裁が加えられるものであったことが前記の **PRIVILEGIE** や公正証書の文面より知ることができる。また、許可の有効期間は **Nouvelle Methode** に関する限りは15カ年であったことも同様にして知り得る。1697 版以降の **Nouvelle Methode** の出版は、何れも、1697 年 11 月 15 日の発行許可およびその更新に基づいて行なわれ、1790 年版に到っているのである。発行の許可乃至その更新の期日は、未だ確定し得ないものもあるが、およそ、次の通りであろう。

1697-11-15……1712……1728……1743-6-21……1758-6-21……1773-5-8  
……1788-8-30

1728 年は平戸本の **PLIVILEGIE** にある 1743 年より逆算したものであるが、1697 年、最初の許可がおりた時期から起算すると 1727 年となるはずである。ここに 1 年のずれがあり、また、1773-5-8 と 1788-8-30 の間にも 110 日余のずれがある。これらのずれが許可の更新によって、どのように救われたかは、今のところ、不明であるが、平戸本、辞範原典および国会本がそれぞれ、1758 年、1773 年、1788 年の許可の有効期間中に出版されたものであり、**Van der Aa** があげている 1711 年版は 1697 年におりた最初の許可に基づくものであり、また、1715 年版は 1712 年におりたと推定される許可によるものであろう。

ところで、ここに、発行許可をうけていないと推測される、**Nouvelle Methode** の前身とも思われる、マリンの “**La Nouvelle Methode, Frans en Nederduits.**” がある。**Amsterdam Saturdagse Courant** 紙 1694 年第 139 号に、前記の、**Pieter Sceperus** が出した広告記事に出ているものである。必要部分を抽記すると次のとおりである<sup>6)</sup>。

Tot Amsterdam bij Pieter Sceperus, . . . , is gedrukt en wert uit-

gegeven: La Nouvelle Methode, Frans en Nederduits, door Pieter Marin, behelsende beknoptelijk de meest bekende naem, bij- en werkwoorden, regels en voorbeelden van declinatien en conjugatien, benevens seer gemakkelijke en leersame samenspraken, nooit voor desen in so goede ordre bijeen gebragt. Dit boek is mede te bekomen tot Haerlem bij Braeu, . . . , en andere steden (*Amsterdamse Saturdayse Courant*. Anno 1694. No. 139. . . . Tot Amsterdam bij Willem Arnold. . . . , daar deselve ookvergoet worden, den 20 November 1694.

1694 が、記事で、二回出ているところからして 1697 の誤りとも思われない。また、すでに、Haerlem, Leiden, Hage, Delft, Rotterdam, Amsteadam 等の各地で販売中と述べられているので、交通の不便な当時の事情よりみれば、同年の初期には既に刊行されたものと推定される。書名も“Nouvelle Methode”でなく“La Nouvelle Methode”である。発行許可についても、Nouvelle Methoode の場合、その有効期間は、一貫して、15 カ年であるから、仮りに、とっているとすれば 1672 年うけたこととなり、マリナーが 15 才の時となる。広告主が“Nooit voor desen in so goede ordre bijeen gebragt”と誇る辞典が、この若さで、編さんできたとは思われない。

上述せるところから、“La Nouvelle Methode”はマリナーが 1697 年の発行許可の下に出版した“Nouvelle Methode”とは区別されるべきものと考えられるが、広告面に見る本書の内容（周知の名詞、副詞、動詞、曲用および活用の規則や事例、また、興味深い、教訓的な会話）に該当すると思われるものが平戸本、国会本に含まれていることや書名の類似することよりして、“La Nouvelle Methode”は“Nouvelle Methode”の初版本の前身となるものとみてよいであろう。



次の5ページに亘る L'Oraison Dominicale, Prière pour l'Augmentation de la Foi, Prière avant le Repas, Action de Grace après le Repas, Les dix Commendement de Dieu, Vers choisis, Sur la Pentecôte chretienne は順序, 内容, 全く, 国会本と同じである。唯, Les dix Commendement のところで, 平戸本の Le Commendement が国会本では, La Première Table となっているちがいがあるのみである。以上の, 12 ページに亘る前文は, 辞範にはない。

次に, 各書の本文内容の照合をしなければならないが, 平戸本以前に発行された Nouvelle Methode は, 日本国内では未だ見出されていないし, 又, その内容を知るための資料も, 現在のところ, 入手し得ない。従って, 茲では, 平戸本に重点をおきつつ, それと国会本及び辞範との実質的関連の一部を発音, 語彙, 大文字及びアクセントの用例について見ることにする。平戸本第1ページの Règles pour prononcer l'Orthographe Française 以下第304ページ迄の諸項目, およびその所在ページ数は, 国会本と全く一致する。第305ページ以下の Formules des lettres et de Billets de change, Lettres Galantes et autres Déclarations d'amour à une Demoiselle; Contes, Bons-mots et Histoires も又, 同様である。最終のページにある Inhoud en Bladwyzen (内容と目次) も両書全く一致する。次に, 各項目の仏文内容をみる。

本文第1ページは Règles pour prononcer/L'ORTOGRAPHE FRANCOISE となり, 国会本も同様である。両書は次のように殆んど一致する。

平 戸 本			国 会 本	
	1	2	1	2
e	is zacht	petite, belle, une	//	//
é	// hard	bonté, santé, été	//	//
è	// helder	succès, procès, après	//	//

平 戸 本		国 会 本	
1	2	1	2
ê // zwaar	tête, fête, même	//	//
g lispand voor e. en i	George, gingembre	//	//
h is meest stom.	l'homme, un habit	//	//
i is scherp	dit, lit, dix, pis, liste	//	//
qu' is K	qualité, quoique, quand	//	//
r // stom op't end	aller, dormir, aimer	//	//
s // // // //	pommes, lis, bis, ris	//	//
t // // // //	petit, lit, chat	//	//
u is zwaar	lut, put, il fut, Rut	//	//
y // scherp	l'hyver, de l'yvoire	//	de l'hyvoire
ai, ay is é	j'aimai, je parlai	ai is e	//
ナシ		eai is é	je mangeai, jugeai
eau, au is o	l'eau, autel, Cataut	//	//
en, em is an	lent, cent, tems	//	//, //, temps
ou // oe	douze, goût, bout	//	//
ois // ae	j'étois j'allois	//	//
oit // et	il étoit il alloit	//	//
oient is ae	ils étoient, ils avoient	//	//
Ils écrivent	il écrive	//	i zecrive
Ils portent	il porte	//	i porte
Ils donnent	il donne	//	i donne
Qu'ils mangent	qu' il mange	//	qu' i mange
J'ai, j'y ai, y ai-je,?	n'en ai-je pas? j'y irai	//	
Je, me, te, se, de, le, re, ne, que,		//	

異なるところは yvoire と hyvoire の綴りのちがいが、ay が国会本になく、eai が平戸本になく Ils ecrivent 以下の四文の読み方のちがいのみである<sup>7)</sup>。辞範においては発音のところ（草稿一）は両書よりずっと詳しく諸字反切科第一、凡例、反切簡易法、不合本音者の四項目を設け、諸字反切科第一で字母の説明と発音の仕方を示し次で、音母、韻母の別をあげ、連音の仕方や語末子音の無音化などを詳しく説いている。これら 2 項目の内容は平戸本、国会本の何れにもなく、ドーフの教示と編さん者らの学習の結果を示しているものであろう。反切簡易法、不合本音者の部が両書の発音の部に当るが、辞範の内容は国会本のそれと殆んど一致し、国会本の

lut, put が il lut, il fut となり, J'ai, j'y, ai y ai-je 以下の部分が含まれていない相異があるのみである。

平戸本, 第2ページより第15ページに亘る諸項目は noms Substantifs & Adjectifs, Verbes qui régissent le Datif, Verbes qui régissent l'Accusatif, Verbes Impersonnels, Verbes Réciproques, Verbes Neutres, Adverbes & Prépositions, Du Temps, Les jours de la Semaine sont :, Les Mois de l'Année sont :, Des nombres, Des monnoies, Les Poids & Mesures, De l'Ecriture となっており, 第15ページより第49ページまでは章別となり, その中の小項目は次の通りである。

Chapitre I. Du Ciel & la Terre en général.

Il y a dans une Ville :

Il y a dans l'Eglise :

Chapitre II. Des Degrés de Consanguinités.

Chapitre III. Des Parties du Corps & de ses Accidens.

Les Accidens du Corps sont :

Chapitre IV. Des Habits pour les deux Sexes.

Les Dames portent.

Chapitre V. De la Maison & de ce qui en dépend.

Des Meubles.

Il y a dans la Cuisine :

Il y a dans la Cave :

Il y a dans l'Ecurie :

Chapitre VI. De la Table et de ce qui s'y sert.

Des Mets en général.

On fait bouillir.

On rôtit.

Poisson de Mer.

Poisson d' eau douce.

Pour apprêter les Viandes, il faut.

On mange au Dessert.

Chapitre VII. Des Dignités Séculières et Ecclésiastiques et des  
Vocations.

Dignités Ecclésiastiques.

Des Professions & Métiers.

Chapitre VIII. Du Négoces :

Actions de Marchands :

Termes des Négocians.

Noms des Marchandises :

De la Navigation :

Les Etats de l'Europe sont :

Chapitre IX. Des Arbres, des Fleurs, des Oiseaux, enz.

Les Légumes & Grains

Des Fleurs

Des Oiseaux

Des Quadrupèdes

Termes de Guerre.

以上の諸項目と諸章およびその諸小項目は、その文言、その所在ページにおいて平戸本は国会本に全く一致する。唯、表題中の語の綴りとアクセントに相異があるのみである。即ち、平戸本の **Monnoies**, **Tems**, が国会本では **Monnoyes**, **Temps**, となっている。次に、辞範と対比すれば、平戸

本の第2ページより第15ページまでが辞範(草稿二)の部分であり、第15ページより第36ページまでの部分即ち、Chapitre 1よりChapitre VI迄が辞範(草稿三)の部に当り、第37ページより第49ページに亘るChapitre VIIよりIXまでが辞範(草稿四)の部に当るのである。辞範にはページがうつっていないが項目も、その順序も平戸本従って国会本に全く一致する。表題の用語について見れば Monnoyes, Temps, は国会本に一致するが、大文字、小文字の使い分けに一致しない点が多い。このことは各項目に含まれている語についても同様で用例が一定していない。平戸本、国会本では文頭の語は一般に大文字で始まり、単語をあげるときもそうである。一例をあぐれば Des Professions & Métiers の項にある名詞55のうち、平戸本、国会本はすべて大文字に始まっているが辞範では23のみであり、Les Accidents du Corp の項では両書は、56の名詞をすべて大文字で始めているのに辞範では20にすぎない<sup>8)</sup>。

次に平戸本、国会本及び辞範の各項目中の仏文の語の綴り、異語、欠語、é と è の用例をとって比較検討して見出した三書間の異同は次のとおりである。

項 目 名	平 戸 本	国 会 本	辞 範
Noms Substantifs & Adjectifs	Tems	Temps	Temps
Des Monnoies	Monnoies	Monnoyes	Monnoyes
Il y a dans une Ville	Labirinte	Labyrinthe	labirinte
Les Accidents du Corps sont:	Accidents	Accidens	Accidens
Des Meubles	taye	Taye	Taÿe

国会本、辞範は6語中5語が一致するが Labirinthe のみは平戸本、辞範が一致する<sup>9)</sup>。

Les Accidents du Corps	Menterie	Mensonge	Mensonge
On rôtit	Homars	Ecrevices	Ecrevices

Des Monnoies	なし	Deux liards	Deux liards
"	"	demi Escalon	demi Escalon
"	"	florin	florin
De l'Ecriture	"	écrire gras	écrire gras
"	"	écrire menu	écrire menu
Des Habits pour les deux Sexes	"	Boucles	boucles
De la Table & de ce qui s'y sert	"	pot à l'huile	pot à l'huile
Des Professions & Métiers	"	Péletier	péletier
"	Fourrier	なし	なし

異語、欠語、共に、国会本と辞範とは一致する。唯、Boucles, boucles; pot à l'huile, pot à l'huile; Péletier, pèletier の小異があるにすぎない<sup>10)</sup>。

é, è の別は、辞範の音母例 e 篇と反切簡易法において、示しているが、é の用例は、辞範では des Temps の項の l'Après-diné, Verbes Reciproques の項の se méprendre, se dépêcher, des nombres の項の premièrement, il y a dans une ville の un Marché, Chapitre II の les pères & Mères, 反切簡易法の santé, ètè を除き、平戸本、国会本では é となる 85 語ではすべて è となっている。例示すれば, mèpriser à présent, blè, passè, ègard の如きである。平戸本、国会本の用例の一致より、辞範原典も é となっていたものと推測される。辞範において、è の異常な用例が余りに多いところをみると筆先の誤りかドーフの発音の誤りか或いは編者のききちがいかなどの色々な原因が考えられるが、恐らく e の発音記号法が未だ確立してない当時のこと故アクサンのつけ方をなおざりにしたものであろう<sup>12)</sup>。

è について。語尾が ere で終る 10 語についてみると、平戸本、国会本共に mère, père, Frère, Lingère, Laitière, Herbière, Salière, Séculière, Prière, Arrière-garde と é になっている。このことから辞範原典もそうであったと推測される。辞範では上述の次第ですべて è となっている。次

の5語のみは国会本、辞範共にアクセントなく、平戸本はéで一貫している。  
jarretieres, boutonniere, Tabatieres, goutieres, volieres.

辞範原典もアクセントはなかったものと推測される。

上述の点より見て、平戸本と国会本はマリンの“Nouvelle methode”の異版本たる関係にあること、両書の間に辞範原典が介在すること、辞範の内容が平戸本のそれよりも国会本のそれにより多く一致することから見て、辞範原典の内容はほぼ国会本のそれと同じものではなかったかということが考えられるのである。

#### 【註】

- 註 1. 愛知大学・山崎教授「幕末長崎におけるフランス語研究の先駆者たち——弘朗察辞範のことなど」フランス語研究 No. 12. pp. 28—30. 弘朗察辞範の成立経緯を略述せる後そのカナ書標音につき吟味を加えておられる。
- 註 1. 広島大学中村教授「幕末長崎に於けるフランス語研究」pp. 271—274. 「辞範」成立の経緯と編纂者本木、吉雄、榎林につき略述しあるのみで内容にはふれておられない。語林については「本木庄左衛門は以上の外になお「和仏蘭対訳語林」四冊を完成した」と述べておられるにすぎない。
- 註 1. 呉秀三「洋学の発展と明治維新」p. 345 “本木は後に吉雄権之助・榎林米左衛門(1812—1874)とともに「仏蘭西辞範」四巻というのを著した”というのみで「語林」についてはふれていない。
- 註 1. 古賀十二郎「徳川時代に於ける長崎の英語研究」p. 30. 本木の履歴を述べるところで「なほ、本木氏は夙に仏蘭西語の研究に心を潜め、文化戊戌辰年二月六日仏蘭西語の修業を命ぜられ、弘朗察辞範(一冊)、和仏蘭対訳語林(四冊)を遺している。

古賀には辞範および語林についてより詳しい次の叙述がある。

古賀十二郎「長崎文化史・語学」(長崎県立図書館蔵草稿) p. 103「長崎市役所に仏蘭西辞範」四冊が遺存している。もと本木家に保存されていたものである。題言などもあるが文末には年月日が欠けているので、この編集の着手並に成就の年紀は分らない。しかし、文化十一年甲戌年六月暗厄利亜語林大成の脱稿以後の者らしい。題言の末に、大日本、和蘭家訳、長崎、本木正栄等奉命謹訳とあるが、いつ此書が奉行書に差出された者であるか、

或は差出されなかったか、それも判明しない。本木家由緒書、本木庄左衛門の条にも、この書の記載はない。

この弘郎察辞範は、吾邦に於ける仏蘭西語研究第一歩の記念塔であり、真に至宝と謂ふべきものである。然るに、その起稿並に成就の年記明らかならざるは、真に憾みとする所である。そのことは姑く措き、先づ左に題言や本文の内容を紹介しておく」といって題言全文と各項目の日本語のみをかかげている。「語林」については全草稿 p 112 に「前記の弘郎察西辞範の外に、和仏蘭対訳語林、五冊長崎市役蔵。が遺存している。これには序文、凡例などが附いてないから、何年頃、何人の編修に係り、如何なる西書に依拠した者が判明しないが、多分、弘郎察辞範と相前後して書上げられた者であろう。

この書も、やはり、本木庄左衛門、吉雄権之助、植林栄左衛門、三名が、甲比丹ヘンデレキ・ドウフの指導の下に、編纂したものと推測したい。

第一分冊には詞源要津篇 *principes absolument necessaires* (*Zeer hoognodige grondregles*) があって、静詞(名詞)、虚詞(形容詞)、動詞、形動詞、その他に就いて説明を与へ、作文法(*syntax*)に及び、陽(男性)陰(女性)その他、仏文法の大概に就いて記述してある。そして、第二冊の始めまで、文法の説明に充ててある。

第二冊より第五冊に互り、第一より第二十三迄、言語集が続いている。第五冊の言語集、第二十一には、情交、求婚、第二十二には、諸礼式、第二十三には蘭国の歴史に関する会話があるが、最後の歴史に関する会話は、長話中の長話ともいうべき者である。

それから第五冊の終末の二ヶ所には、仏文並に蘭文はあるが、邦語の訳文はない。これにて本書が未定稿であることは、推測に難くない。

仏語に対しては、いちいち蘭語の対訳があり、また、和訳が与へてある。そして、第五冊の最後に *Einde Der Samenspraaken* (会語終り)と記してある。

この和仏蘭対訳語林と云う外題は、本書の内容が辞書でもあるように思わせるであろうが、決して辞書ではなく、弘郎察辞範と同類の書に外ならぬのである。

- 註 2. 同稿第 19 頁で次のように述べておられる。「右にしるしたように、「和蘭察辞範」と「和仏蘭対訳語林」との内容を通覧してみると両書は内容的に、かなり関連性があるように考へられる。すなわち、「弘郎察辞範」は発音篇にはじまり、後半は「単語篇」になっているのに対して「和仏蘭対訳語



林」はその前半が活用変化例を中心としての文法篇で、後半が会話篇となっている。両書の内容をあわせると、それは、Van der Pijl の *Gemeensame leerwijs* に見られるよう、当時用いられたオランダ語による英語入門書……の形式をなすものと考えられる。したがって、両書は、同一の蘭仏対訳のフランス語入門書の翻訳なのではないかということが考へられる訳である」

- 註 3. 同稿第 33 頁「*Pieter Marin* の *Nouvelle Méthode* と「*私郎察辞範*」および「*和仏蘭対訳語林*」との関係は、大略、右に述べたとおりである。つまり、*Nouvelle Méthode* の本文について、その末尾の手紙、書式類とコント、物語類とを除き、その主要な部分を訳したものが「*私郎察辞範*」および「*和仏蘭対訳語林*」なのである。その翻訳は「*私郎察辞範*」の巻頭の発音篇を除き、他は大体において *Nouvelle Méthode* の本文通りのかなり忠実な訳と思われる」
- 註 4. 同稿 p. 22. 「*Pieter Marin* の *Nouvelle Méthode* は、前述のとおり、国会図書館に現蔵（上野図書館旧蔵）されているが、この本は、現在のところ、国会図書館のものだけで、他に所蔵されたもののあることは知られていない。」
- 註 5. マリンは 1667/68 年、フランスの *Laferte* に生れ、早くより、*Amsterdam* に移住し、そこでフランス語を教えるとともに、フランス語の辞書、文法書の編纂に注力し、多くの著書を残している。オランダにおけるフランス語の普及に貢献すること甚大であったが、その生涯や業績については、まとまった研究はないようである。ライデン大学の図書館長は筆者宛の書簡中で “*Il est un peu étrange de ne trouver sur Pierre Marin ni notice ni étude spéciales*” と述べておられる。マリンの *Amsterdam* における没年は 1718 年。
- 註 6. *De boekhandel te Amsterdam voornamelijk in de 17e eeuw* Vol. I p. 679.
- 註 7. *hyvoive*. ラテン語系の *h* は早くより無音化し綴りの上でも消えたものが多い。中世以後、語頭の *h* が復活したが、それは、次に来る *i, u* が子音 *j, v* でなく母音であることを示すためであった。したがって平戸本の *yvoire* に *h* を加えるものは発音上は無意味であるが、*h* を復活した学者語の傾向にならったものであろう。

*eai. c* を *s* に発音するために *cedille* が用いられに到ったが *g* を *j* に発音する特別な記号はなかったので *ai* の前に *e* を挿入したもの。

*ay. i* が母音 *i* と子音 *j* の両様に発音されたので母音 *i* を示すに *h* を用

いたとが多い。

**liaison.** 16 世紀より 17 世紀末まではフランスにおいては *il, ils* の後に子音が来ると *l* を発音しなかった。漸次 *l* の発音が出ることになるので傾向としては、ここでは逆の結果になっている。

註 8. 大文字の用法は 18 世紀中では確立してない。文頭の語と文中の固有名詞、国籍、国語は多く大文字で書かれた。しかし、普通名詞でも意識的に大文字を用いた例も多い。

註 9. *temps. temps*→*tens, tems*→*temps* と変化した。

*monnai. monnoie* }→*monnoie* }→*monnaie*  
*monneie* }  
*monnoye* }

*labyrinthe, lebarinthe*→ $\left\{\begin{array}{l} \text{labyrinthe} \\ \text{labyrinte} \end{array}\right\}$ →*labyrinthe*

*accidents. accidents*→*accidens*→*accidents*

*taie. tei—toie*— $\left\{\begin{array}{l} \text{taie} \\ \text{taye} \\ \text{taye} \end{array}\right\}$ —*taie.*

フランス語の綴りはフランス・アカデミーの辞書（1694, 1718, 1740, 1762, 1795, 1835, 1878 年）の編さんによって漸次統一されて現在に到った。しかし、その影響の国外に及ぶのはおそく、著者、出版者の考えによる異綴が多い。

註 10. *menterie* は *mensonge* の古形。

*homars* は *homards*→*homars*→*homards* と変化した

*ecrevices* は *écrevisse* の古形

前置詞 *à* は *a*→*â, a*→*à* と変った。

平戸本の欠語は辞範原典において追加されたものであろう。

註 11. *ere* で終る語においては、アカデミー辞書の第 3 版(1740 年)で *ère* となったものが多い。第 4 版 (1762 年) で更にその数を増し *cédre, féve, célèbre* 等少数の語のみが例外となった。平戸本、国会本においてはなお、*ére* が多い。アカデミーの綴り改革の影響は未だ両者に及んでいない。

註 12. 反切簡易法で *e* の 4 種の発音を示し、次の通り説明しているが、*é* の項に例示された *bontè, ètè* のアクセントのつけ方は  $\wedge$  と  $\nearrow$  の別に留意していない証拠である

— *e* は桑和の音をなす則 <sup>ベティテ</sup> *petite*, <sup>ペールエ</sup> *belle*, <sup>ユーネ</sup> *une* 是也

— *é* は堅剛の音をなす則 <sup>ボンター</sup> *bontè*, *santé*, *ètè* 等なり

- |              |  |
|--------------|--|
| 一. è は清音をなす則 | シユクセイ    ボロセイ    アブレイ<br>succès, procès, après 等なり |
| 一. ê は重音をなす則 | テイテ    ヘテイ    メイメ<br>tête, fête, même 等なり          |

参考文献（既述のものを除く） C. H. Bruneau; *Petite histoire de la Langue Française.*, E. Bourciez; *Précis de Phonétique français.*, C. Beaulieu; *Historie de l'Orthographe Française.*, A. Dauzat; *Dictionnaire Etymologique.*, O. Bloch et W. v. Wartburg; id.; Darmestier; *Historical French Grammar.*